

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

アカデミックで自由闊達な校風のもと、文武両道の実践を通じて、国際社会の真のリーダーたるにふさわしい人材の育成をめざす。そのためには知・徳・体のバランス、豊かな人間性と心身のたくましさ、さらには高い志とチャレンジ精神が必要である。それらによって自らの進路を切り開き、高邁な理想で社会に貢献する生徒を育成する。具体的には以下の能力や態度をもつ生徒である。

- ・多角的な視点を持ち、ものごとを洞察する力、
- ・主体的に課題を解決しようとする態度、
- ・高度なコミュニケーション能力、
- ・自己を確立するとともに、互いの違いを認め合い尊重しようとする態度

以上の「育てたい生徒像」をベースにして、「北野生の『凄さ』が輝く学校づくり」に オール北野 で取り組む。

2 中期的目標

1 高い学力の育成

教員、生徒がともに真摯に学ぶ環境を追求し、高度な知識と教育スキルを兼ね備えた教員集団を確立する。授業を通じて生徒が学問に対する興味・関心を高め、自ら主体的に学び、さらに高度な学びに向かってチャレンジしていく意欲を高める。生徒に育成すべき資質・能力として、生きて働く「知識・技能」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を常に意識して取り組む。

(1) アカデミックな授業 ～北野生の「凄さ」が「輝く」授業づくり～

ア 授業に係る研修機会や授業相互参観等の充実を図り、教職員の授業スキルの一層の向上を図る。イ 教員の専門的知識や ICT 活用法を研鑽する機会の充実を図る。

- ※ 学校教育自己診断（教職員向け）「教科指導について、教職員と日常的によく話し合っている」の肯定的評価が令和6年度実績で90%以上 (R1 91.1%, R2 87.5%, R3 89.6%)
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」の肯定的評価が令和6年度実績で90%以上を維持 (R1 92.2%, R2 93.3%, R3 95.0%)
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「授業などでコンピュータやプロジェクタ、電子黒板を活用している」の肯定的評価が令和6年度実績で95%以上を維持 (R1 96.1%, R2 96.1%, R3 95.9%)
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「授業は興味深く満足できるものである」の肯定的評価が令和6年度実績で90%以上 (R1 90.3%, R2 93.0%, R3 96.6%)

(2) 主体的に学ぶ意欲・態度の育成

ア 生徒が自学自習を進めやすくなるような方策を検討し、併せて適切なアドバイス等を行う。イ 生徒の自己実現、進路目標設定のためのキャリア教育の充実を図る。

- ※ 生活アンケート（生徒向け）により把握する「平日の一日平均自主学習時間」が「2時間以上」と回答する生徒の割合を令和6年度実績で50%以上 (R1 51.8%, R2 48.7%, R3 51%)、「3時間以上」と回答する生徒の割合を同30%以上 (R1 36.%, R2 30.5%, R3 37%)
- ※ ①「知的世界の冒険」、②「職業ガイダンス」、③「学部・学科ガイダンス」各々の生徒アンケートにおける肯定的評価を令和6年度実績で各々95%以上を維持する。(①R1 95.5%, R2 100%, R3 100% ②R1 99.0%, R2 100% R3 100% ③R1 98.3%, R2 99.0%, R3 99%)
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「学校は進路についての情報を知らせてくれる」の肯定的評価を令和6年度で90%以上を維持 (R1 92.8%, R2 93.6%, R3 94.3%)
- ※ 生徒進路希望現役実現率（3年第2回11月進路希望調査の第一志望校の現役合格率）が令和6年度実績で45%以上 (R1 41.2%, R2 45.5%, R3 56.5%)

2 豊かな人間性と心身のたくましさの育成

本校の生徒は、将来、知・徳・体のバランスの取れたリーダーとなり、社会に貢献する使命を持つ。本校のあらゆる学習活動、学校行事、部活動やその他の課外活動等を通じて、互いの違いを認め合いつつ協力し、切磋琢磨する中で、高い志を持って何事にもチャレンジしていく心身を育成する。

(1) 学校行事・部活動・課外活動

ア 学校行事や部活動において、生徒がその力を十分に発揮できるよう組織的に支援していく。

- イ 各種コンクール、コンテストや課外での行事等への積極的参加を働きかけていく。
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「文化的行事（体育行事）に楽しく参加している」の肯定的評価の平均値が令和6年度実績で90%以上 (R1 90.8%, R2 90.1%, R3 90.9%)
- ※ 生活アンケート（生徒向け）における「部・同好会加入率」が令和6年度実績で92%以上を維持 (R1 89.7%, R2 92.4%, R3 89.4%)
- ※ 全国レベル、近畿レベルのコンクールやコンテスト、競技大会等への参加者数について、令和6年度に前年実績を維持 (R1 37人3団体, R2 18人, R3 61人)

(2) 人権教育・教育相談の充実

ア 「人権が尊重された教育活動」を根底にすえて、すべての教育活動において、「自分を大切に、他者を大切に、その中で自分も大切にされる」集団づくりを進めていく。

- イ 生徒や保護者に対するきめ細やかな教育相談ができるよう、情報の共有や体制づくりを一層進める。
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定的評価が令和6年度実績で80%以上を維持 (R1 89.8%, R2 89.6%, R3 89.1%)
- 「担任以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができる」の肯定的評価が令和6年度実績で60%以上 (R1 65.7%, R2 71.6%, R3 62%)
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」の肯定的評価が令和6年度実績で75%以上 (R1 74.4%, R2 90.8%, R3 91.1%)
- ※ 学校教育自己診断（教職員向け）「すべての教育活動において、人権を尊重する姿勢で指導が行われている」の肯定的評価が令和6年度実績で80%以上 (R1 78.6%, R2 73.2%, R3 81.2%)

3 次代のグローバル・リーダーの育成

国際的な視野を育むとともに、グローバルな社会課題を多角的に学び、積極的にその解決策を提言できる生徒を育成するため、海外や大学との連携を図る。また英語の4技能を一層バランスよく育成して、英語によるコミュニケーション能力のさらなる伸長を図る。

(1) コミュニケーション力、議論する力、プレゼンテーション力の育成

ア 授業を中心とするさまざまな学習活動の中で、自分の考えをまとめ表現できる力、相手の主張を理解し自分の意見を交えてしっかりと議論ができる力を育成する。

- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がよくある」の肯定的評価が令和6年度実績で90%以上を維持 (R1 92.1%, R2 96.0%, R3 95.5%)。

(2) 海外の機関との連携、高大連携の充実

ア 高大連携を通じて、国際的な視点で大学の研究の最先端に触れ、国際的な社会課題への関心や、その課題解決に向けた意欲を高める。

- イ 海外の大学や高校と連携し、アジアからの留学生との交流や留学生の支援を得る機会を充実させる中で、異なる文化や社会への理解を深め、国際的な視野を広げる。
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「国際理解や世界情勢について学ぶ機会がよくある」の肯定的評価が令和6年度実績で80%以上を維持 (R1 81.9%, R2 86.1%, R3 86.3%)
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「本校で海外からの高校生との交流会、学内留学、海外研修、留学生とのディスカッション等、英語を使って海外の人と交流したり学んだりする機会に参加したことがある」の令和6年度実績が65%以上 (R1 66.3%, R2 56.7%, R3 62.3%)
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「国際的な社会課題や政治の動きに関心がある」の肯定的評価が令和6年度実績で80%以上 (R1 76.3%, R2 77.5%, R3 77.2%)

4 学習環境及び職場環境の充実

(1) 学習環境のさらなる充実

ア 生徒の主体的な実践を通して清々しく過ごせる学習環境の創出・充実に取り組む。

生徒が自らよき生活習慣、生活規範を確立し、学習・部活動、その他の活動に健康的にバランスよく取り組めるよう、機会を捉えて啓発活動を行う。また、SNS上でのいじめやトラブル未然防止のため、情報リテラシーの育成にも取り組む。また、生徒自治会・生徒保健委員会等の生徒主体の活動を尊重し、新型コロナウイルス感染症防止対策など、望ましい学習環境を自らの行動によって支える意識を高める。

イ 北野生の「凄さ」が「輝く」授業・事業の継続のため、予算の効果的・効率的な執行に努める。また、老朽化してくる教材機器・設備の更新の計画的な実施を検討する。

(2) 職場環境のさらなる充実

教員が専門的知識及び教育スキルを高めるため、また生徒と向き合う時間を確保するため、業務の見直しを行い、時間外労働の縮減に取り組む。教員が自分の仕事に誇りをもち、働きがいを感じる職場の雰囲気づくりを心がける。

以上のすべての活動を通じて、生徒の学校満足度を高める。

- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「北野高校に来てよかったと思う」の肯定的評価が令和6年度実績で90%以上 (R1 90.2%, R2 91.9%, R3 94.5%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和4年11月実施分〕	学校運営協議会からの意見
<p>●【選択回答に関して】 数字は令和3年度→令和4年度 の肯定的回答の比率</p> <p><u>1. 高い学力の育成</u> 授業に関わる研修機会や授業相互参観等の充実を図り、教員が授業力向上に努めるとともに、専門知識や ICT 活用法を研鑽し、アカデミックな授業づくりを進めた。教員個々が、授業を通じて、生徒の学問に対する興味・関心や、主体的に高度な学びに向かう意欲を高めるよう努めた。生きて働く「知識・技能」、未知の状況に対応する「思考力・判断力・表現力」、学びを人生に生かす「学びに向かう力・人間力」を、常に意識して授業づくりに取り組んだ。 <学校教育自己診断参考データ> *「授業では、ペアワーク・実験・実習・観察などの時間がある」(生徒 85→99.1%) *「教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」(生徒 95→95.9%)</p> <p><u>2. 豊かな人間性と心身のたくましさの育成</u> 生徒たちは、将来、知・徳・体のバランスのとれたリーダーとなり、社会に貢献する使命がある。本校のあらゆる教育活動、学校行事、部活動やその他の課外活動等を通じて、互いの違いを認め合いつつ協力し、切磋琢磨する。学内外の各種コンクール・コンテスト、発表会、英語を使う諸活動、地域貢献活動等に、生徒たちがしっかりと取り組めるよう、将来の進路や生き方、命の大切さや人権、社会のルールやモラルについて考える機会を充実させた。 <学校教育自己診断参考データ> *「HR や講演会などで将来の進路や生き方について考える機会がある」(生徒 96.8→96.1%) *「人権の大切さについて学ぶ機会がある」(生徒 90.1→97.4%)</p> <p><u>3. 次代のグローバル・リーダーの育成</u> コミュニケーション力、議論する力、プレゼンテーション力の育成に向け、生徒が自ら考え発表する機会を、授業の中でいかに充実させていくか、今後も引き続き、各教科・科目で考えていく。 <学校教育自己診断参考データ> *「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」(生徒 94.3→93.1%) *「国際的な社会課題や政治の動きに関心がある」(生徒 76.3→83.7%)</p> <p><u>4. 保護者、府民への学校情報の提供、公開</u> 今年度は、保護者の方々から来校できる機会が通常に近づいたが、このような状況だからこそ、学校からの情報の配信には一層の充実と利便性を求めていくことが必要と考え、学校ブログも開設した。個人情報やセキュリティに細心の注意を払いつつ、配付プリントに記載された内容が、WEB ページから得ることができようすることも検討する。また、年2回の授業公開、学級・個人懇談や各種説明会により、学校生活や進路に関する情報をきめ細やかに提供していく。 <学校教育自己診断参考データ> *「学校の教育方針がよくわかる」(保護者 83.7→85.8%) *「学校は、教育に関する情報について配布物やメール、WEB ページ等により、提供の努力をしている」(保護者 70.6→80.9%)</p> <p><u>5. 学校生活への満足度</u> 学校生活全般を通じて、満足度を高められるよう教育活動の充実を図った。学校生活に違和感を抱いている生徒に対して、スクールカウンセラーによる「心のケア」も行っている。 <学校教育自己診断参考データ> *「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」(生徒 90.8→93.4%) *「相談事があるとき、担任以外でも保健室や相談室などで相談できる」(生徒 68.8→79.3%) *「学校へ行くのが楽しい」(生徒 92.2→91.5%) *「北野高校に来てよかったと思う」(生徒 94.9→91.9%) *「子どもを北野高校に通わせてよかったと思う」(保護者 93.2→94.0%)</p>	<p>●第1回学校運営協議会 令和4年7月15日(金)</p> <p>1 授業見学の感想 ・数学は生徒の関心を引きながらの授業でテンポが良く、もっと聞きたくなるような授業であった。授業内に笑いがあつたり、拍手が起きたりしている様子が良かった。 ・古典の授業が非常に興味深かった。漢詩を自分で作るという点がおもしろく、私自身 作りたくなかった。課題の提出方法が紙媒体から電子媒体に変化しており、教員にとっても生徒にとっても合理的であると感じた。電子黒板の使用が当たり前になっている様子に感動した。</p> <p>2 事務局報告 ○進路部 今春の大学入試では 300 名程度の卒業生のうち 200 名が第一志望の国公立大学に合格した。今年度は例年に比べ特に第一志望合格率が高い。京都大学については、例年の合格 率が 40～50%であるのに対して今年は 50～60%と高かった。こうした結果の理由として、まず共通テストの難化が考えられる。全国の高校生が戸惑う中で、本校の生徒はこれまでの着実な積み重ねを発揮し、冷静に第一志望の学校を受けることができた。 ○生徒指導 生徒の遅刻について、コロナウイルスの感染拡大前と比較すると遅刻する生徒が とても増えている。コロナ禍が治まった後、学校生活に対応できるよう指導する必要もあるように感じる。</p> <p>●第2回学校運営協議会 令和4年12月2日(金)</p> <p>○校長 教員には授業に注力して欲しいと常々伝えているが、他校に授業見学する取り組みも、出てきた。授業力を高めようとする姿勢が伺え、他校と協力することでお互い良い刺激となり、大阪府全体で高め合うことができるのではないかと。「次代のグローバル・リーダーの育成」について、今年度は留学生をアジア高校生架け橋プロジェクトから4名受け入れている。国内にいながら留学で得られるような経験にもなり、グローバル・リーダーの育成につながるのではないかと。 →教員が他校に授業見学に行くのはとても良い。 ○進路部 外部模試の結果について、京都大学、東京大学の希望人数は例年より多い。推薦入試については例年より多く挑戦し、そのほとんどが国公立志望であった。今年度は1年間を通じて講演会・ガイダンス・進路 HR・進路説明会などを行った際、生徒たちの感想をフォーム作成ツールで集計した。それにより生徒の反応がすぐわかり、次の企画に修正・反映できた。 ○生徒指導部 <制服の見直しについて> 制服の見直しにあたり、制服検討委員会を設置した。昨年度、ジェンダーの観点から指摘があり、校長も交えて今後北野高校として制服の問題に対して向き合うことを話した。今年度、夏季休暇前にジェンダーに関する人権問題についての教職員研修を行った。また、11月には全学年の生徒も同様に行った。研修後に生徒に対して行ったアンケートの結果、約75%の生徒が「制服を変更したほうがよい」、さらにそのうち約80%の生徒が「セクシュアル・マイノリティへの配慮が必要」と答え、人権学習の成果が見られた。その後、制服検討委員会の教員および生徒自治会役員らで議論を重ねた結果、誰もが安心して学校生活を送ることができる学校をめざすべきであるとの観点から制服変更という結論をだした。 →生徒一人ひとりが自己肯定感を持ち自分らしさを表現できることは重要である。 →制服の問題もあるがお互いをリスペクトできる感覚が国際性を追求する中では重要であり、制服以外の面でもそうした環境をつくらなければならない。 →昔の制服はもっと自由であったと感じる。そのような自由が許されるのも六稜魂の一つではないかと。 →制服に限らずジェンダーの問題として、生徒がその問題に対する感覚を養う必要がある。</p>
<p>●【記述回答についての学校の考え方と検討状況】</p> <p><u>1. 施設・設備の改善について</u></p> <p>①トイレ・手洗い場 教室棟の1系統の男女トイレの改修工事を行い、洋式化した。また3階女子トイレの半数を洋式化した。生徒による清掃の他、業者による校舎内トイレ清掃を年間20回ほど実施している。トイレの手洗いを自動水洗に改修した。</p> <p>②部室 同窓会の創立150周年記念事業の一環として、新部室棟(六稜倶楽部)建設工事が始まった。</p> <p>③校舎・教室 毎年「屋根をつけてほしい」「トイレが少ない」「教室が寒い」などの意見をいただくが、校舎は国の設置基準に従って建設されているものであり、構造を変えることはできない。女子ロッカー室から校舎までの移動の際、雨に濡れてしまうことについては、履物の変更など、引き続き検討課題とする。</p> <p>④空調関係 コロナ禍の影響で常時換気が必要となっているため、集中管理システムによる本校の設定温度は、冷暖房とも、外気温に応じて教育委員会の基準を上回る柔軟な温度設定にしている。今年度、体育館2階フロアに熱中症対策のための空調設備を設置した。</p> <p>⑤Wi-Fi 環境の整備 一人に1台タブレットを貸与する大阪府の事業の進展に伴い、Wi-Fi のアクセスポイントが各教室に設置された。現在、通信容量の問題を含む運用方法、セキュリティポリシーについて検討を進めている。大阪府指定のグループウェアを導入、実施している。</p>	<p>令和5年2月28日(月)</p> <p>1. 高い学力の育成 ・アカデミックな授業に関して、教職員および生徒から学校教育自己診断において90%を超える肯定的な評価を得ている。 ・昨年度の第一志望校の現役合格率は一昨年度よりも10ポイント以上、上がっており、今年度も期待ができる。 ・海外からの高校生との交流の機会に関してはコロナ禍でありながらも高い評価を得ている。今年度は1年生に4人の留学生がおり、その影響が大きいと考えられる。留学生による演劇などの発表会などを通じて交流ができていた。</p> <p>2 委員のみなさまより ・保護者の観点から申し上げると、新3年生となる息子との会話の中で、貧困やヤングケアラーなど、社会的な活動に関する話題が増えた。 ・せっかく1人1台端末があるのであれば上手に使えられれば良いが、どの教科においても一様に使う必要は必ずしもない。 ・ジェンダーのみなならず留学生や障がいを抱える生徒も含めて、多様性を認める環境づくりをめざして欲しい。 ・若手ビジネスリーダー懇談会を行った。50歳未満の若い世代の同窓生が40人以上集まった。若い方を起用して生徒も参加してもらうことにより、生徒に職業観や勤労観を知ってもらえたらと思う。 ・教職員の業務も非常に増えている中、教職員自身が相談できるような環境があれば良い。 ・小学校から中学校にかけて基礎基本の定着から発展させるという小中連携の大切さを感じている。同様に中高連携もより発展させていきたい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R3年度値]	自己評価
1 高い学力の育成	<p>(1) アカデミックな授業 ～北野生の「凄さ」が「輝く」授業づくり～</p> <p>ア 教職員の授業スキルの向上</p> <p>イ 研鑽機会の充実</p> <p>(2) 主体的に学ぶ意欲・態度の育成</p> <p>ア 自学自習の推進</p> <p>イ キャリア教育の充実</p>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内での授業公開週間を実施 公開研究授業の実施 他校の初任者等教員との授業力向上研修の実施 校内の教員相互の授業見学を継続。 ICT・オンライン学習等に係る教員研修の開催 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 他校や校外における授業研修等への参加者を増やす。 研修等への参加者と他の教員との間で研修内容等の共有化を図る仕組みをつくる。 教員の専門的知識を研鑽する機会のあり方について検討する。 <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業を通じ教科・科目の学習への興味・関心を一層高める。 自学自習の推進方策についての検討を深める。(主体的な学習習慣の定着、学習の質量両面での充実) 図書館の設備や資料の活用を働きかけ、生徒の自主的、自発的な読書活動や学習活動の充実を支援していく。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「知的世界の冒険」「職業ガイダンス」「学部・学科ガイダンス」の実施 進路目標の早期設定に向けた取組の充実 	<p>(1) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断(教職員向け)(以下「教職員自己診断」)「他の教員の授業を参観する機会がある」90%以上を維持 [93.7%]。 教職員自己診断「教科指導について、教職員で日常的によく話し合っている」の肯定的評価が90%以上 [89.6%]。 教職員自己診断「評価とその方法について、教職員で日常的によく話し合っている」の肯定的評価が80%以上 [79.2%]。 学校教育自己診断(生徒向け)(以下「生徒自己診断」)「教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」の肯定的評価が90%以上を維持 [94.3%]。 生徒自己診断「授業などでコンピュータやプロジェクト、電子黒板を活用している」の肯定的評価90%以上を維持 [94.9%]。 生徒自己診断「授業は興味深く満足できるものである。」の肯定的評価が90%以上を維持 [97.0%]。 <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活アンケートの「平日の一日平均自主学習時間」が「2時間以上」を50%以上維持 [51%] 「3時間以上」を30%以上維持 [37%]。 図書館の働きかけを通して、貸出冊数の増加や学習活動の充実を図る。(R3 6735冊) <p>(2) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「知的世界の冒険」、「職業ガイダンス」、「学部・学科ガイダンス」各々の肯定的評価95%以上を維持 [99%, 97.5%, 99.9%]。 生徒自己診断「学校は進路についての情報を知らせてくれる」の肯定的評価が90%以上を維持 [94.3%]。 進路希望現役実現率を50%以上(R3 56.5%)とする。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「他の教員の授業を参観する機会がある」91.2% ○ 「教科指導について、教職員で日常的によく話し合っている」87.7% △ 評価とその方法について、教職員で日常的によく話し合っている」70.1% △ →観点別学習状況の評価に対する熟練に一定の期間が要する。 「教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」95.9% ◎ 「授業などでコンピュータやプロジェクト、電子黒板を活用している」97.2% ◎ 「授業は興味深く満足できるものである。」94.5% ○ →授業に関する生徒の評価は極めて高く、今後も生徒の期待に応えていきたい。 <p>(2) ア</p> <p>平日の一日平均自主学習時間</p> <p>「2時間以上」48.9% ○</p> <p>「3時間以上」28.4% ○</p> <p>貸出冊数 R4 4904冊 △</p> <p>(2) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「知的世界の冒険」、「職業ガイダンス」、「学部・学科ガイダンス」各々の肯定的評価 [95.6%, 91.8%, 98.3%] ○ 「学校は進路についての情報を知らせてくれる」89.4% ○ 目標値は下回ったが学校ブログを新設し、進路情報は適切に配信した。 進路希望現役実現率 41.3% △
2 豊かな人間性と心身のたくましさの育成	<p>(1) 学校行事・部活動・課外活動</p> <p>ア 学校行事や部活動</p> <p>イ 各種コンクール等への参加</p> <p>(2) 人権教育・教育相談の充実</p> <p>ア 人権基礎教育推進</p> <p>イ 教育相談の充実</p>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校行事が生徒にとってより魅力的なものになるように不断の改善を図る。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が課外への活動に積極的にチャレンジしていくよう、情報提供等を含め、働きかけを活発にする。 <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校の人権教育の体系化を図る。 教職員の人権意識をさらに高めるための研修機会等について検討する。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の状況についての共有化を一層図る。 SC との連携やケース会議の充実、関係機関との連携を一層図っていく。 教育相談にかかる校内体制づくりを推進する。 	<p>(1) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒自己診断「文化的行事(体育行事)には楽しく参加している」の肯定的評価の平均値が90%以上を維持 [94.3(86.3)%]。 生活アンケート(生徒向け)における「部・同好会加入率」90%以上 [89.4%]。 全国レベル、近畿レベルのコンクールやコンテスト、競技大会等への参加者数がR3実績と同数を維持 [61人]。 <p>(2) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒自己診断「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定的評価が85%以上を維持 [89.1%]、「担任以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができる」の肯定的評価が65%以上 [62%]。 生徒自己診断「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」の肯定的評価が90%以上維持 [91.1%]。 教職員自己診断「日常の教育活動において、生徒の人権を尊重する姿勢で指導が行われている」の肯定的評価が80%以上 [81.2%]。 	<p>(1) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「文化的行事(体育行事)には楽しく参加している」92.3% ◎ 「部・同好会加入率」93.4% ◎ 全国レベル、近畿レベルのコンクールやコンテスト、競技大会等への参加者数 61人 ○ <p>(2) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」93.4% ◎ 「担任以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができる」79.3% ◎ 「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」97.4% ◎ 「日常の教育活動において、生徒の人権を尊重する姿勢で指導が行われている」80.7% ○
3 次代のグローバルリーダー	<p>(1) コミュニケーション力、プレゼンテーション力の育成</p> <p>ア 議論できる力等の育成</p> <p>(2) 海外の機関や大学との連携</p> <p>ア 高大連携</p> <p>イ 海外との連携</p>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 「課題研究」「学内留学」「国際情報」「海外研修」等を中心に、英語を含めて、ディベート(即興型)やプレゼンテーション等の学習と実践を行う。 <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際的な社会課題への関心と課題解決に向けた意欲を高めるため、地域の資源やWWL事業も活用するとともに高大連携をさらに進め、課題研究における生徒支援をさらに進める。 <p>イ</p>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒自己診断「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がよくある」の肯定的評価が90%以上を維持 [95.5%]。 <p>(2) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員自己診断「本校は、外部(保護者、地域、大学、教育産業等)との連携・協力が積極的に取り組んでいる。」の肯定的評価が80%以上 [81.3%]。 生徒自己診断「国際理解や世界情勢について学ぶ機会がよくある」の肯定的評価が80%以上を維持 [86.3%]。 	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がよくある」93.1% ○ <p>(2) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「本校は、外部(保護者、地域、大学、教育産業等)との連携・協力が積極的に取り組んでいる。」80.7% ○ 「国際理解や世界情勢について学ぶ機会がよくある」84.6% ○

府立北野高等学校

 の 育 成		<ul style="list-style-type: none"> 海外の大学や高校との連携をオンラインを活用するなどしてさらに進め、また長期留学生を受け入れることで、生徒の国際経験を深めるとともに、課題について研究し、成果を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自己診断「本校で海外からの高校生との交流会、学内留学、海外研修、留学生とのディスカッション等、英語を使って海外の人と交流したり学んだりする機会に参加したことがある」の肯定的評価が65%以上 [62.3%]。 	<ul style="list-style-type: none"> 「本校で海外からの高校生との交流会、学内留学、海外研修、留学生とのディスカッション等、英語を使って海外の人と交流したり学んだりする機会に参加したことがある」 89.4% ◎ →アジアの架け橋で4名の生徒を海外から受け入れた効果
4 学 習 環 境 及 び 職 場 環 境 の 充 実	<p>(1) 学習環境の充実</p> <p>ア 学習時間の確保</p> <p>イ 予算の効果的執行等</p> <p>(2) 職場環境の充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成30年度に策定した「北野高等学校部活動に係る活動方針」の運用について検証を続ける。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「授業第一主義」を支える予算の効果的執行 教材機器・各種設備の更新、トイレ等生活環境の改善に向けた中期的検討 <ul style="list-style-type: none"> 校内組織の見直し継続 会議の回数、時間の見直し継続 同僚性の高い職場の雰囲気づくり 	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活アンケートの「部活のない休日の一日平均自主学習時間」が「4時間以上」を50%以上[51.0%]、「5時間以上」を同40%以上 [35.5%]。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校会計事務の適正な遂行のもと、教員と事務職員がそれぞれの専門性を生かしつつ、必要な情報を収集共有し互いに知恵を寄せて、生徒のためよりよい教育活動に向けた創造的提案を行う。 保護者自己診断「学校の施設・設備や学習環境は満足できる」60%以上目標。[61.0%] 「日々の教育活動における問題意識や悩みを教職員間で気軽に相談しあえる。」80%以上をめざす。[79.2%] 	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 「部活のない休日の一日平均自主学習時間」 4時間以上 49.8% ○ 5時間以上 37.3% ○ 目標値は下回ったが生徒は効率的によく努力している。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校の施設・設備や学習環境は満足できる」 70.1% ◎ 「日々の教育活動における問題意識や悩みを教職員間で気軽に相談し合える。」 73.7% △